

委員会活動報告

「見たこと・聞いたこと、そして考えたこと」

市民の安全を守るために ～埼玉東部消防組合を訪ねて～

総務常任委員会
4月23日 埼玉東部消防組合

埼玉東部消防組合は、消防広域化により平成25年4月1日に設立され11年が経過した。

今回の視察では、同組合の概要や管内出動件数、災害活動用ドローン、配備車両、指令センター等について説明を受けた。

同組合管内4市2町（久喜市、加須市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町）の人口は、平成25年をピークに減少傾向が続き、5年は443,000人となっている。一方、高齢者の人口は、平成25年から増加し続け、5年には140,281人となっている。

同組合所有の資機材として、災害活動用ドローンの操縦を視察した。3機の災害活動用ドローンには、4Kカメラ等が搭載され、困難な現場での被害状況の確認等に活用されている。小型化・低価格化が進み、災害時での



活用が増えると考えられる。

次に、津波・大規模風水害対策車両の説明を受けた。埼玉県では、同組合に1台配備されている。東日本大震災での救助活動の教訓を踏まえ大規模な風水害等による人命救助に対応するため、水陸両用バギーやストレッチャー、ライフジャケット等の救助活動に必要な資機材が搭載されている。

最後に、指令センターを視察した。119番等の受電からリアルタイムで現場に近い緊急車両の把握等を行う「直近直行」が可能なシステムが導入されているが、旧久喜消防署指令センターでは大変手狭のため、6年度から建設工事を行い、8年度から高機能消防指令センターが稼働予定である。新センターには、72時間連続稼働が可能な非常用発電機用地下タンク等を設置予定である。

近年、異常気象により激甚化する水害は多く、救助活動の充実は重要課題であるため、市民の防災に対する意識啓発に努めたい。

教育環境の改善を

文教厚生常任委員会
5月10日 市役所4階特別大会議室
市立西小学校

当市では、市街化区域と市街化調整区域とで人口の多寡に比例して、児童数の偏りが大きく、教育環境にも少なからず影響を及ぼしている。児童数が多いのは、西小学校、南小学校、白岡東小学校及び篠津小学校で、児童数が少ないのは、大山小学校、菫我小学校である。児童数の推移を見ると、平成22年度には市全体で2,761人だったのが、20年後の令和11年度には、411人減少し、2,350人になると想定している。小学校別の児童数推移の予想は、篠津小学校は36人の減少、菫我小学校は67人の減少で全学年が35人以下になるためクラス替えができない、南小学校は67人の減少、西小学校は大山小学校の児童が編入しても2人の減少、白岡東小学校は109



人の減少をそれぞれ見込んでいる。それに伴い、学級数も減少すると見込んでいる。

また、市内でクラス数及び児童数が最大であり、空き教室がない西小学校の現状を把握するため、現地調査を行った。同校では、特別教室の図書室に配置できない分の蔵書を移動式書架台を利用して廊下に工夫して配置している。特別教室の図工室もなく廊下で作業を行っている状況であった。さらに、更衣室がないため、廊下にパーティションを立てて着替えを行わなければならない。職員室は、通路の確保が困難なほど窮屈な状況であった。今後、大山小学校の児童も一緒に学ぶことになる同校には、教室増数等の早急な対策など、教育環境の改善に努めていただきたい。

当市の児童数は、ここ数年でピークを迎え、その後は減少に転じることを考慮すると、学校適正配置計画をしっかりと考えるとともに、余裕ある学区適正化を図るべきである。